

将来のグラウンドデザインを設計する。

篠原 慶規

国土管理保全学

Q. どうしてこの研究が必要なのですか？

これから日本の人口は、どんどん減少していきます。また、気候変動などにより、災害のリスクが増加するかもしれません。森林に目を向けると、西日本を中心に竹林が拡大したり、宮崎県では、森林の伐採が大規模に進められたりしています。このように、私たちの生活を取り巻く環境は刻々と変化しています。そのような中で、私たちが持続可能な生活を行っていくためには、科学的根拠に基づいて、その土地のあり方（使い方）を考えることはとても重要ではないかと思っています。

Q. 具体的にどのような研究を行うのですか？

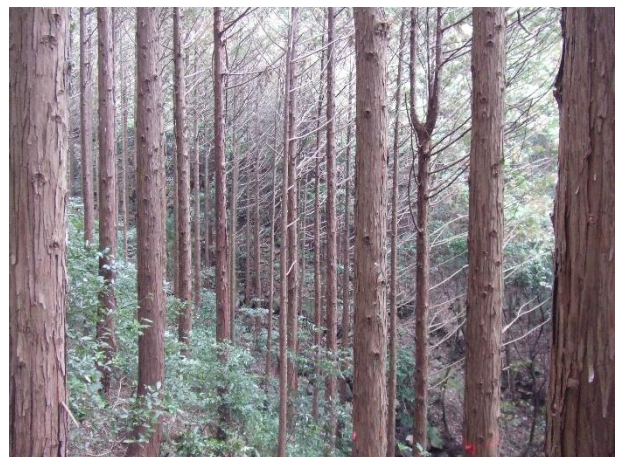
これまで日本は様々な土地の変化を経験してきました。例えば、森林に目を向けると、戦前、日本には数多くの「はげ山」がありました。その後、木材需要に応えるための大規模な造林が行われましたが、現在では、十分に管理されていない森林も数多く存在しています。他方、土砂崩れのデータや、洪水や水資源と関連する河川の流量データなどは長期間にわたり計測されています。これら過去から現在にわたる土地の変化と、それに伴う災害リスクの変化を比較することで、最適な土地のあり方を模索しています。

Q. 最近の成果や課題を教えてください。

過去から現在まで土砂災害による死者数は大きく減少していますが、様々な統計データを分析することで、この死者数の減少には、森林がとても重要な役割を果たすことがわかってきました。今後は、このような解析を様々な視点で行っていきたいと思っています。まずは、データが充実している日本で行いたいと思っていますが、成果は、同じような問題を抱える他の国でも適用可能なのではないかと考えています。



広葉樹林に侵入するタケ



管理が十分に行われない針葉樹人工林